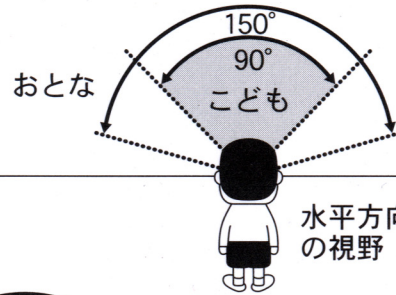


チャイルドビジョン

(幼児視界体験メガネ)

このメガネは、大人（ドライバーや子どもの保護者）が
幼児の視界を体験するためのものです。
幼児の目の高さになり体験しましょう。



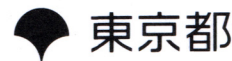
水平方向
の視野

きりぬく

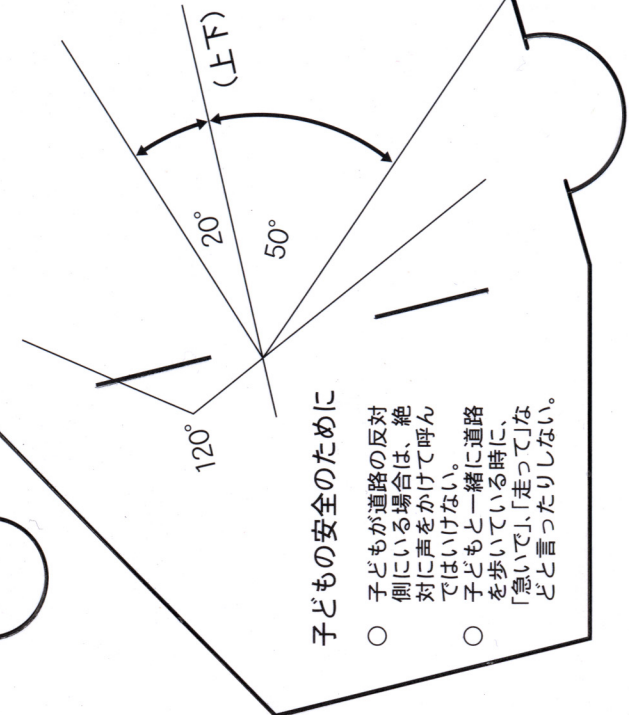
きりぬく

きりぬく

子どもを守るのはあなたです



制作協力：横浜市、テラダクラフトスタジオ 寺田松雄

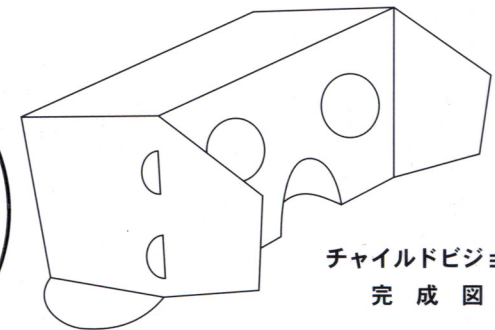


子どもの安全のために

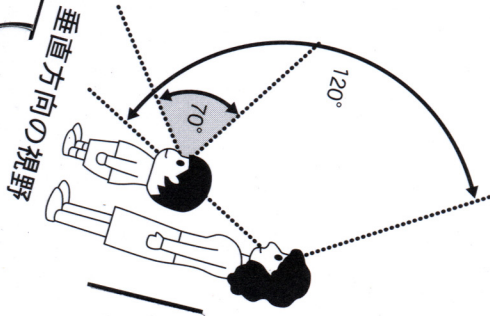
- 子どもが道路の反対側にいる場合は、絶対に声をかけて呼んではいけない。
- 子どもと一緒に道路を歩いている時に、「急いで」「走って」などと言ったりしない。

[作り方]

—— 切りとり線
—— 折り線



チャイルドビジョン
完成図



子どもの安全のために

- 車の近くでは、絶対に幼児から目を離さない。
- 幼児と道路を横断する時は、手をしっかりと握り、必ず一緒に渡る。
- 幼児を連れて道路を歩く場合は、子どもを先に歩かせたり、遅れさせてはならない。

子どもの特性について知っておきましょう

- 子どもの目の高さは大人より格段に低いので、視界が限られる。
- 一つのものに注意が向くと、周りのものが目に入らなくなる。
- 物事を単純にしか理解できず、また、その時々気分によって行動が変わる。
- 「危ない」とか「注意なさい」という抽象的な言葉では理解できない。
- 環境や条件が変わると、応用動作ができない。
- 大人がそばにいと、それに頼る気持ちが強くなる。
- 車の下や、路上の物陰で遊ぶ傾向がある。

子どもへの指導は

- 具体的に教える。（実際に道路を渡る時に「立ち止まり、頭を動かして左右を見る」ことを教える等）
- 何度も繰り返して教える。

引用・参考文献

スティナ・サンデルス：交通のなかのこども

日本自動車工業会：子どもの道路横断行動からみた交通安全対策に関する研究報告書